

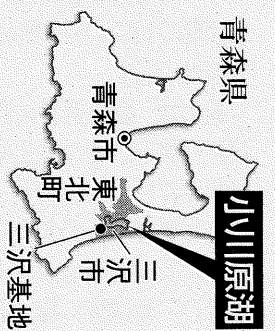
横田基地(東京都福生市)の米軍機(V22オスプレイ)が超低空飛行(ホバリング)訓練を繰り返し、大きな問題になった青森県東北町の小川原(おがわら)湖。1年たった今もわがも顔で危険な訓練は行われ続け、住民や漁業者に怒りや不安が広がっています。(高橋拓丸)

青森・小川原湖
横田基地(東京都福生市)の米軍機(V22オスプレイ)が超低空飛行(ホバリング)訓練を繰り返し、大きな問題になった青森県東北町の小川原(おがわら)湖。1年たった今もわがも顔で危険な訓練は行われ続け、住民や漁業者に怒りや不安が広がっています。(高橋拓丸)

2.22.9.1 赤旗

宝の漁場わがも顔

米軍横田基地からオスプレイ超低空飛行訓練



小川原湖は、63・2平方キロメートルある青森県最大の湖です。多くの水産資源を要する漁場で「宝沼」と呼ばれ、レジャーに多くの人たちが訪れる観光地でもあります。小川原湖では道の駅で買い物をしていた東北町の女性(63)は「怖いですよ。また事故が起きて湖に油(燃料)が流れてしまったらと思うと不安です」と話します。

事故続発
小川原湖は、湖畔の1部を米軍三沢基地(三沢市)に占められており、米軍機による事故を経験してきました。1992年には戦闘機の部品16戦闘機のタンク投棄が

共産党都議が調査「配備中止を」

コースアツク

あり、このときは地元療養所の警察が1カ月に及ぶました。尾崎あや子都議の姿がありました。米軍機(V22オスプレイ)による危険な訓練が大規模な問題になったのは、2021年6月。超低空飛行を繰り返すのを日本共産党の市川俊光都議が撮影し、多くのメディアで取り上げられ、日本共産党やさまざまな市民団体が抗議を行いました。しかし米軍は自衛隊や漁業に水しぶきが機体全体を覆い隠す超低空飛行を繰り返していました。7、8月に同様の訓練を繰り返しました。

小川原湖で漁業を営むは、21年6月には山形県男性に見せてもらった湖の空港に、9月には宮城県からの通知には、安全のために漁業・航行を制限すると書いてあります。米空軍は22年8月17日、クランツの不良を受けつけていない状況ではないかと市川町議は、事前告知行中止を決定しました。さすればいくらでも訓練できる状態になっている。市川町議は、事前告知行中止を決定しました。

『敵基地攻撃』のためのがよく分かりました。欠陥が、実際には訓練内容は各基地で行われている状況、難訓練」となっている。東都と同じ危険な訓練が行われている。東都を見た尾崎都議は、「東都と同じ危険な訓練が行われている状態になっていない」と話します。

響く爆音
環境保護の願いから中止の直前まで危険な訓練を続けていたことは許されません。横田基地のオスプレイ配備中止を求めて、都への申し入れなどに取り組みます」と話します。

8月10日に行われたホバリング訓練。湖畔に